

第11回 特別講演会報告 すべてをカミングアウトしてくれた迫力の講演でした

あらゆる苦難を乗り越えてきた社長がたどり着いた経営者のあり方とは

安芸自動車学校 代表取締役社長 山口 隆朗

慢心の後、5つの苦難が同時にやってきた

私は31年社長をやってきましたが、社長とは物事を決定する人だと思っています。親の会社に入り、7年間は指導員、その後、社長になり、8年程うまくいっていて、私はすっかり慢心してしまいました。その結果、なんと5つもの苦難がいつべんに降り掛かってきました。①自動車学校が毎年赤字に。②新事業として立ち上げた車のディーラー業が大赤字に。③妻が3人の子を連れて、家を出て行った。④初期のガンが見つかった。⑤信頼していた部下が会社の金を使い込んでいた。



泣きつ面に蜂どころではない、最悪の状況に追い込まれてしまいました。

銀行に言われた3つのことで目が覚めた

最悪の状況の中、銀行から3つのことを言われました。①「あなたには経営の能力がない。買ってくれるところがあれば教習所を売ちなさい」これは何より頭にきた言葉でした。②「今後は1円も貸さない」これまで給与・賞与などで支払いができなければ、銀行から借りていましたが、そういうことは一切できなくなり、毎月必ず黒字にしなければならなくなりました。③「金返せ！」普通なら50年かかるところを10年で返済計画を立てさせられました。できる訳のない机上の計画で、予定どおりの支払いができなければ、原因と対策を提出させられました。これが何年も続き、私は銀行の前を走って逃げようになりました。ガソリンを撒いて火をつけてやりたい程でしたが、結果的には銀行に助けられ、返済を進め、会社を健全な状態に戻していくことができました。

原因はすべて自分の中にあった

ある時、父から「何があっても、死ぬことだけは考えるな。生きて、借金を全額返せ」と言われました。実はその頃、私は自殺を考えていましたが、父から言われたことで「逃げてはダメなんだ」と悟りました。それまでの私はバブルが悪い、社員が悪い、人口の減少が悪いとすべて周りのせいにしていました。傲慢な人間は自分が至らなかつたとは考えないのです。子供から「お父さん、大嫌い」と言われてショックだったのですが、家族に対しても「オレが食わしてやっている」といつも言っていました。使い込みも私自身が現場を見ていなかった結果でした。すべて、自分が原因だと気づき、社長としてすべてを背負い、逃げずに向き合った時、新しい自分に会えることができました。

トイレ磨きの効用

本当に苦しい15年程の間、いいと思うことは何でも試してみました。そんな中で経営コンサルタントの一倉定氏から「会社を磨け。サービスを磨け。人を磨け。社長自ら、トイレを磨け」と言われ、以来、実践し

ています。朝6時から2時間、15カ所をゴム手袋は使わずに掃除しています。朝一番に会社に入ったとき「くさい」と感じたら、汚れが残っている証拠。消臭剤や換気扇ではおいは消えないのです。トイレを磨いたからといって、資金繰りがよくなるわけではありませんが、**会社の空気はよくなります**。そして、社長が掃除をしていると、社員も掃除するようになり、汚れに気がつくようになります。

年計グラフ・経営計画書・利益計画表

直近の12カ月の入校生数を毎月比較する年計グラフ、「うちはこの会社にしたい」と皆に発表するための経営計画書、売り上げ、利益の目標値を決め、実績を書き込んでいく利益計画表。すべて社員にオープンにしています。

3年3ヵ月かかった免許証

知的障害の青年が入校し、9ヵ月経っても仮免まで行かず、学科の最高点は72点でしたが、彼の父から、「どうしても免許を取らせたい」言われました。そこで再入校はさせずに、学科の授業に出てもらい、同時に私が学科の個人指導をすることに。彼は教本が読めず、「様子」「できるかぎり」など言葉の意味も理解できませんでした。2人で1年3ヵ月かけ、教本を1冊読み通しました。ある日、6時半からの約束に彼が現れず、サボったのだと思っていると、送迎バスに乗り遅れた彼は17kmの道のりを走ってきたのです。私を待たせている、その思いで必死に走ったのでしょう。この時、「私の方から、彼をあきらめるのは絶対にやめよう」と誓いました。その後50問で90点が取れるようになり、再入校。最初の入校から2年半で卒検に合格できました。ところが彼の父から「免許センターに何度いっても受からない」との連絡が入り、今度は免許センターにつきあうことになりました。7度目でついに合格。翌日、社員に合格を伝え、みんなで大喜びしました。これで3年3ヵ月の苦役から解放された。ホッとするはずなのですが…なんと、翌日から私は彼が来ないことが寂しくてたまらなくなりました。こんなに頑張ったお客様がいてくれたことに改めて感謝しました。彼の残していったボロボロの教本は私の宝物です。

笑顔の卒業がバロメーターに

卒業する教習生に「ありがとう」と言われる。それこそが指導員にとって一番幸せな時間のはず。ところが担当指導員がそこにも目も合わせずに帰っていく教習生がいます。「こんなところ、二度と来るか」「こんな指導員、もう顔も見たくない」そう思っただけで卒業する方がいるということです。顔も見たくないような指導員から言われた言葉が伝わる訳がない。私たちの思いが教習生に伝わっているかどうかは、笑顔で卒業していったかどうかでわかります。教習生の笑顔を作るための仕掛けをこれからも考えていきたいと思っています。

満員御礼!大盛況だった懇親会

講演終了後は名刺交換会と懇親会。恒例のコヤマドライビングスクール長期研修生「轟会」メンバーによるクイズは、なかなかの難問ぞろいで各テーブル、首をひねっていました。2位の賞品になっていた太平楼の「粕てい羅」にちなんだ問題も出題されました。続いて、当社営業スタッフのユニットS2Kスマイルのステージ。ラッツ&スターの「夢であえたら」をご披露。黒塗りのメイクでの登場に会場は多めに盛り上がりました。最後は法被に着替えて、「祭り」でにぎやかに締めくくりました。

顔面黒塗りで大熱演!! ▶



特別講演会に参加して

三重高等自動車学校 専務取締役 中西 勇太郎

定年まで2年を残し、この4月に義父の経営する自動車学校へ転職。すぐ社内の窓口対応等に改善の余地があると感じ、職員に近隣の有名自動車学校の窓口視察を行なってもらいました。そうしたことから少しずつ会社の環境・社員の意識に変化が現れましたが、経営者への研修はありませんでした。そんな時、貴社の特別講演会を知りました。安芸自動車学校の山口隆朗氏の講演から経営者は「最後に意思決定する人」だから大変なのだと思えました。「オレならやれる」という自負心が慢心を生み有頂天になった時、転落が始まったのだと氏は語られました。その後の壮絶な会社再建への取り組み、思わぬ身が引き締まりました。かといって何もせずに漫然と経営していても経営者失格と氏は述べられました。だから会社経営は難しいのだと納得しました。



また、自動車学校マナー推進協議会のお話では、指導員には①心くばり ②気くばり ③目くばり ④耳くばり ⑤頭くばりが重要であると聞きました。まさに、目から鱗が落ちました。さっそく今回、私が研修した内容を朝礼で報告し、掲示板に板書、職員に周知しました。いい研修を企画していただいた貴社に感謝の意を込めて筆を置きたいと思っています。